

けんこう

地方独立行政法人
岐阜県総合医療センター
Gifu Prefectural General Medical Center

●令和元年9月発行

●令和元年 秋号

●発行責任者 滝谷博志

●編集 総合医療センター広報委員会

ご挨拶

岐阜県総合医療センター
副院長兼看護部長

古田 明美



当センターは、岐阜医療圏に位置する高度医療を担う急性期の総合病院です。

看護部では、高度な医療技術・看護を提供していくとともに、県民の皆様に信頼される病院であり続けるために必要な人材の育成と活用に力を入れています。特に当院の特徴である救急医療、がん医療、周産期医療、小児医療の分野においては、専門性を發揮できるよう看護師同士のつながりを意識しながら、部署を超えて継続した看護の実践を行っています。

例えば、特別な領域において水準の高い知識・技術を備えたスペシャリスト（専門看護師・認定看護師）が、患者さんの入院されている病棟で担当看護師と共に直接看護活動をすることで、より専門的で個別的

な援助を計画・実践し、安全・安心な看護に繋げています。このような資格を有した看護師は、院内多方面で活躍しています。近年では、「多種多様な医療スタッフが、各自的の状況に対応した医療を提供すること」を目的にチーム医療が推進されています。そこで、看護部は当院へ来院される患者さんに、質の高い医療・看護が提供できるように、医療チームの一員として、医師の診療活動を支えながら、病院の発展の推進力として活動しています。当院の特徴の一つとして、患者さんの元に医師、薬剤師、理学療法士等多職種が集い、チームとして患者さんの「生きる力」「頑張る力」を後押ししています。看護師は、各々の幅広い経験と高い専門性を活かし、職種間において互いに連携・補完し合い、患者さんの状況に寄り添いながら医療を提供できるようチーム医療のキーパーソンとしての役割を果たしています。

また、地域の中核病院である当院での看護実践を通して、入院中だけでなく、地域との連携をより深め、在宅での生活をイメージして患者さんやご家族と退院の準備を行います。「住み慣れた地域に帰る」ために、これからも患者さんの生活を守るかかりつけの医師や、地域の訪問看護師の方と、強い繋がりをもつて支援していきたく思います。これからどうぞよろしくお願ひいたします。

患者さんの権利と責務

患者さんに次の権利と責務があります。

- 平等に安全で良質な医療を受ける権利
- 十分な説明と助言のもとに自分自身の医療を決定する権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 個人のプライバシーが守られる権利
- 医療従事者と協力して医療に参加する責務

岐阜県総合医療センターの理念

県民の皆様方に信頼され、患者さん本位の安全で良質な全人的医療を提供します。

岐阜県総合医療センターの基本方針

- 岐阜県の基幹病院として急性期を中心とした医療を担当します。
- 科学的根拠に基づく医療の提供と医療安全に努めます。
- 必要な医療情報を広く公開し、医療の信頼性を確保します。
- 地域の医療機関や福祉施設との連携を重視します。
- 迅速かつ確実な医療とともに、効率的な病院運営に努めます。
- 医学的知識、医療技術の研鑽に努め、医学や医療の進歩に寄与します。

臨床倫理指針

- 患者さんの人権、意思を尊重し、有益かつ公平な医療を行います。
- 治療方針の十分な説明と同意に基づいた医療を行います。
- 患者さんの個人情報を保護し、医療者の守秘義務を遵守します。
- 治療にかかる法令を遵守し、ガイドラインに準じた医療を行います。
- 院内の各種委員会（倫理委員会、治験審査委員会、臓器提供委員会など）の審議結果に基づいた医療を行います。

● 僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療

マイトラクリップ
経皮的僧帽弁接合不全修復システム (MitraClip) の実施施設となりました

循環器内科 矢ヶ崎・野田

心臓の中の血液の流れを一方にする僧帽弁が適切に閉じないことで、全身へ行くべき血液が逆流してしまう病気が僧帽弁閉鎖不全症です。

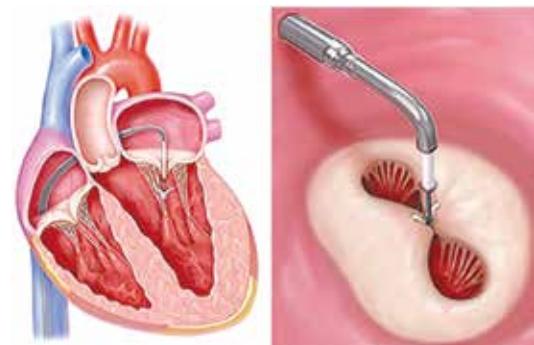
マイトラクリップ
MitraClip は、心不全の原因となる僧帽弁閉鎖不全症に対し、足の付け根の血管から心臓内へカテーテルを挿入し、クリップ（約 15mm 大）を運び、適切に閉じない僧帽弁をクリップでつまむことで、逆流を制御するという治療です。

従来から、開胸を伴う外科的手術が一般的ですが、高齢者や併存疾患が多数ある方などでは手術を断念するが多くありました。この治療法は従来手術が困難と判断された方々を対象に開発されました。

本治療法の場合、カテーテルが体に入っている時間は約 2 時間、麻酔も含めると約 3～4 時間と短時間で済みます。術後も数時間後には飲水も可能となり、翌日には病棟内が歩行可能となるなど、従来の外科的手術と比較して非常に負担の少ない治療法です。

2019 年 4 月現在で、約 50 施設が認定施設となっておりますが、当院も本年 4 月に認定施設となり、5 月から実施しております。

今後適応となる患者さんへ、安全かつ適切に MitraClip^{マイトラクリップ}での治療を実施していくこうと考えております。



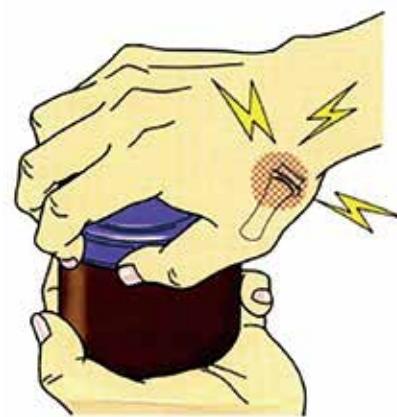
● 手指が腫れたり、曲がってきてませんか？ 手指の関節症

整形外科部長 横井 達夫

50 を過ぎ、更年期を迎える方、あるいはそれ以上の方、最近手指の先の関節（第 1 関節、DIP 関節）が腫れて痛くなったり、曲がってきたりしていませんか？ あるいは親指の付け根が痛くて、フタが開けにくくないですか？ 年のせいと思ってませんか？

手も年をとり、ときに顔以上に加齢変化がわかります。そして多くの女性の方に見られるのが、第 1 関節の変形性関節症、ヘバーデン結節と拇指 CM 関節症です。リウマチを心配されますが、異なります。加齢変化ですので、根本的な治療はなく、症状を和らげる治療になるのですが、更年期の急激な女性ホルモンの変化が関係あるとも言われております。確かに初期の方は、女性ホルモンを補うような、あるサプリメントで改善されます。また手仕事を減らす、趣味を見直すなどの日常生活の注意（例えば庭の草引きに何か道具を使っていただく）、サポーターなどで症状をずいぶんと和らげることもできます。第 1 関節に水膨れを伴う方、加療しても痛くて日常生活に支障の大きい方、変形が大きい方には手術を行うこともあります。

他にも、50 代以降の手は、しびれたり、引っ掛かったり、いろいろ起きます。ご自分の手をじっと見て、ご心配あれば一度整形外科を受診してください。



示指(人差し指)から小指にかけ第 1 関節(DIP 関節)が赤く腫れたり、指が曲がったりします。痛みを伴うことがあります。



● ロボットスーツ HAL® ~神経難病治療における新たな可能性~

中央リハビリテーション部 田丸 健太郎

当院脳神経内科では神経難病治療の一環として 2018 年 4 月より HAL® 医療用下肢タイプ（以下、HAL®）を導入しました。HAL® とは脳・神経・筋系の機能低下で身体を思うように動かせなくなった方の機能改善治療を行う世界初のロボット医療機器です。人が動くときには脳から筋肉へと信号を出します。その信号は非常に微弱な“生体電位信号”として皮膚表面から漏れ出します。HAL® はこの“生体電位信号”を認識して装着者の動きをアシストします。すなわち、ロボットに「動かされる」のではなく、装着者の「動く」という意思に沿った運動・動作が可能になります。対象となる患者さんは脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、シャルコー・マリー・トゥース病、遠位型ミオパチー、封入体筋炎、先天性ミオパチー、筋ジストロフィーのいずれかと診断され、身体のサイズなど当院が定める条件に合った方です。HAL® を用いた訓練は専門医を中心に規定の講習を修了したスタッフが担当します。HAL® 目的の入院は約 1 カ月で、ロボットを装着した歩行訓練を合計 9 回実施します。根本的な治療がないと言われてきた神経難病に対して少しでも貢献できるようにこれからも尽力していきます。



●『岐阜県総合医療センター健康祭2019』のご案内 「知ろう！学ぼう！ 最先端医療」

●開催日時：2019年11月9日(土)11:00～16:00 ●場所：本館1階、情報交流棟3階

岐阜県総合医療センターでは、一般の方を対象に健康祭を毎年開催しています。

【ミニレクチャー】

- | | | |
|--|-------|---------|
| 1. 『ロボットスーツ HAL』ってなんだろう？ | 脳神経内科 | 西田 浩先生 |
| 2. 心臓病治療 ～いろいろできるようになります～ | 循環器内科 | 野田 俊之先生 |
| 3. 手術支援ロボット「ダヴィンチ」って何？
～ロボットの役割について知ろう～ | 泌尿器科 | 仲野 正博先生 |
| 4. 「胎児診療」の最前線 ～ここまで分かる、ここまでできる～ | 胎児診断科 | 岩垣 重紀先生 |
| 5. 肺癌治療 ～令和の幕明け～ | 呼吸器内科 | 都竹 晃文先生 |
| 6. 術後浮腫の悩みにお答えします
～リンパ管細静脈吻合術の実際～ | 形成外科 | 小野 昌史先生 |

【最先端医療のパネル展示・デモ】

- ・新しい最先端の治療などを紹介・解説したパネルや機器を展示
- ・ロボットスーツ HAL のデモンストレーション

【コンサート】

岐阜大学医学部軽音楽部によるコンサート、和太鼓の演技

【病院職場体験】

- ・ダヴィンチ体験ツアー
- ・検査・放射線見学ツアー

【相談コーナー】

お薬相談、栄養食事相談、母乳育児相談

【各種測定コーナー】

血管年齢測定、骨密度測定、体組成計測定

【健康弁当の販売】

健康に良いと言われている食材を使ったお弁当を販売します！

たくさんのご来場をお待ち申し上げます。

参加費、駐車場無料





寄付について

平成31年4月、秋田谷由美様から入院している
子供（ベビー）たちのため、ベビー服を着ていた
だきました。

看護部からのお知らせ

患者さんの価値観を大切に一緒に考え、寄り添うケアを目指しています

乳がん看護認定看護師 渡邊 真子

当院では『乳がん看護外来』を今年2月に開設しました。乳がん看護外来では、患者さんやご家族の不安な気持ちに寄り添いながら、さまざまな相談に応じております。乳がんは50歳前後が好発年齢であり、ライフサイクル上の役割が大きい年代です。乳がんは術後の通院が約10年と長いのが特徴で、そのため、再発・転移への不安が続き、心理的支援が重要です。乳がん看護は、手術による乳房の変形や喪失に伴う心理面への支援だけでなく、術式選択の一つとして乳房再建をどうするかという迷いなど、情報提供しながら患者さんの気持ちをお聞きし一緒に考えています。がん治療に伴う副作用への対処方法、乳がんと遺伝への不安、がん治療と妊娠・出産希望への相談など幅広い支援が求められます。患者さんの療養の場は自宅であり、乳がんと診断されながらも安心して治療と生活が両立できるよう外来看護師と一緒に支援していきます。



こんにちは 栄養管理部です

第36回

今回は当院での食事「きぼう食」の取り組みを紹介します。病院食は治療の一環として、医師の指示のもと患者さんそれぞれの病状に合わせた食事を提供しています。しかし抗癌剤治療や手術などで食欲が大きく低下してしまうこともあります。医師の許可を得て患者さんが食べやすいと思うものを選んで組み合わせができる食事がきぼう食となります。



約50種類のメニューの中から選ぶことができます。

きぼう食は以前「化学療法食」という名称でしたが、なかなか食事が進まない患者さん全員を支援するため、食事が患者さんの楽しみ（＝希望）となれば嬉しいこと、また患者さんが自分の意思で選ぶ（＝希望する）食事、といった意味合いを込めて改名しました。

入院の際に食事で困ったことがあれば管理栄養士をはじめスタッフへ気軽にご相談ください。



広報紙「けんこう」第39号をお届けします。
取り上げてほしい情報などありましたら、お気軽にご意見をお寄せください。

岐阜県総合医療センター 広報委員会
〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号
TEL.058-246-1111 FAX.058-248-3805
Eメールアドレス info@ifu-hp.jp
ホームページアドレス http://www.gifu-hp.jp



この印刷物は環境にやさしい
大豆油インクを使用しています。